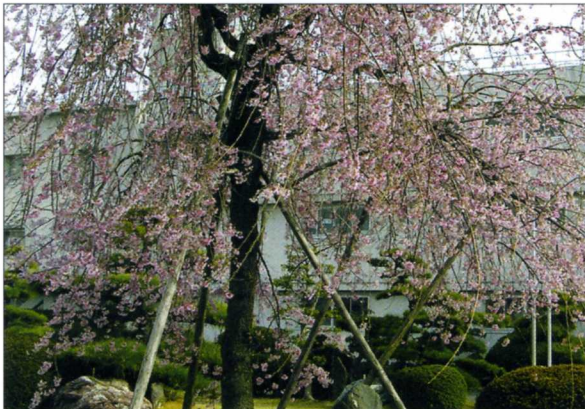


岐阜工業高等専門学校

第12号 (平成19年6月15日発行)

編集：教育後援会事務局

教育後援会通信 「ちから」



1号館前庭のしだれ桜



入学式後の教育後援会説明会

ごあいさつ

教育後援会会長 寺 町 勝 弘



新緑のころ 皆様も心地よくお過ごしのことと思います。

皆様のおかげで、12回目の発刊となる「ちから」ですが、創刊時に名付けた元となる“会員皆のための会員皆の後援会という理念のもの個々の会員の力を集めて大きな「ちから」にして学校を支えていこう”という趣旨を引き継いでいこうと考えております。そのためには、やはり会員の皆様全員参加型の教育後援会を作っていく必要があると思います。会員の皆様にご意見等をいただくための行事も行っておりますので、より多くの方にご参加いただきますよう宜しくお願い致します。

そのために、教育後援会役員ならびに事務局もいろんな場で疑問点や想いをお話いただけるよう努力してまいります。

ひとりのちからではどうしようもない出来ないことも複数になればどうにかなると思います。数も増えれば増えるほど強くなると思います。ただし、いろんな方向を向いてはいけけないので、ひとつの方向になるよう私たち役員がパイプ役となる所存でございます。会員全員が一致団結して学校を支えることが、子供たちがより素晴らしい学校生活を過ごすことが出来る最大の要因と考えております。

ご一緒に前へ前へと進んで行きましょう。ご参加をこころよりお待ちしております。

新任にあたって

新任にあたって



副校長（教務主事）鈴木孝男

昨年度は大学評価・学位授与機構による機関別認証評価が実施され、6月末の自己評価書の提出から10月末日から3日間の現地訪問調査を経て、3月末日にその評価結果が公表されました。その結果を、教育後援会の皆様にまずもってお知らせします。

「岐阜工業高等専門学校は大学評価・学位授与機構が定める高等専門学校評価基準を満たしている。」

さて、高専機構に組織替えになって4年目を迎えたわけですが、「国立高専の整備について～新たな飛躍を目指して～」という冊子が昨年9月に機構から発刊されました。生き残りを賭けた今後の高専の進むべき方向性が述べられていますので、その序論の一部を紹介しましょう。なお、（ ）内の記述は鈴木が分かり易く表現し直しました。

高専は、“博士・修士の学位を持ち、創造体験を持つ教員が、頭脳の柔らかい15歳の時点から準学士課程（本科）卒業の20歳まで、さらに専攻科課程（学士水準）修了までの学生に対し、体験重視型の「創造性」教育、即ち、「創造力に気付かせ、それを引き出す教育」としてのEDUCATIONを実施できる我が国唯一の学校種である”，と定義しています。

一方で、我が国の行財政事情（先に成立した行政改革推進法により平成22年度までに人件費5%以上の削減）と人口動態の制約（15歳人口がピーク時の40%減少）を踏まえて、準学士課程を抑制基調で見直し（中学校での上位30%の優秀な人材を確保するため、近隣高専の統合あるいはポテンシャルの低い高専は学科を減ずる）、そこで生み出される資源を活用した専攻科課程の拡充計画を策定して……とあります。さらに、地域企業と連携し、現場で本物の技術開発課題に触れる共同教育のシステムの構築が不可欠であり……と述べています。

このように、高専を取り巻く内外の環境がいま大きく変わろうとしています。あたかも一期生の皆様が還暦を迎えるのと軌を一にするかのように……。このようなときであるからこそ、教育後援会の皆様の様々な面からの岐阜高専へのバックアップをお願いすることで、新任にあたっての挨拶とさせていただきます。

新任にあたって

—『叱る』ことと『怒る』こと—

副校長（学生主事）久 世 早 苗



平成19年度学生主事を拝命しました、久世早苗でございます。所属は一般科（自然）で、担当教科は保健体育です。

教育後援会会員の皆様には、日頃から本校の教育、クラブ活動等に絶大なるご支援とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

私の人となりについては、学生から話を聞いて頂くとして、学生主事の仕事は学生の生活指導が主になります。私は過去6年間の学級担任と5年間の寮務会議委員として、口うるさい教員の代表格であったと、自負(?)しております。

高専生はとても優秀で、そしてやさしい人柄の学生が多くいます。しかし、まだまだ子供で、「自分だけなら…」とか、「少しくらいなら…」と、ルールを無視した行動が見受けられることもしばしばです。そんな時、私は厳しく『叱り』ます。すると学生は「久世さん（最近の学生は教員を…さん付けで呼ぶ）に『怒られた』」、と言います。「怒る＝腹を立てること」であり、「叱る＝戒めること」なのです。『怒られた』と、言われると、私はとても寂しく、残念に思います。でも、今日も学生を『叱り』ます。それが私の仕事であり、大人、教員の務めであると考えているからです。

最近、「近所の頑固おやじ」がいなくなって、若者は怖いもの知らずだと言います。高専生が一番怖いのは「留年」です。他に怖い物はありません。だから、学生指導を通じて「進級」のお手伝いとなるように、私は高専の「頑固おばさん」に徹し、怖い存在になろうと思っています。保護者の皆様のご理解をお願いする次第です。

新任にあたって

副校長（寮務主事）清 水 晃



平成19年度より寮務主事を拝命しました、一般科目（人文・英語）の清水晃と申します。寮務関係教職員と共に、より良い寮環境の整備に邁進する所存ですので、どうぞよろしくお願い致します。

4月には新入寮生として、1年生70名、3年生に外国人留学生3名、4年生に編入学生2名の計75名を新たに迎え、総員304名（4月5日現在）となりました。在校生の約三分の一が寮生であり、寮生指導の責任を重く受け止めています。

雄志寮には寮生全員で構成される寮生会が組織されており、「学校の指導のもとに、寮生活を通じて自律の精神を重んじ、相互に信頼し合い、他人に迷惑を及ぼす行為をしない自由で建設的な人となるため、共同生活を自主的に運営し、向上すること」を目的として掲げています。そしてこの目的に沿って多数の寮生会行事が行われていますが、寮祭や盆踊り大会のような大きな行事も執行部主導で円滑に実施される様子を目にすると、寮生が共同生活を通じて社会性を身に付け、着実に成長していることを確認でき、とても嬉しく思います。

寮生会は年度末に寮生会誌「みそしる」を発行しています。この小冊子には個人の投稿記事の他に、寮生を対象としたアンケートの結果が掲載されます。その項目の一つに「寮生活で得たもの」というものがありますが、1位には、いつも「友達」と記されています。この事実は、人間関係が希薄になったと言われる現在の世の中で、学寮は一生付き合う親友を得ることができ非常に貴重な場であることを示しています。残念ながら、毎年、一部の寮生は苦々しい思いを抱きながら自ら寮を去り、また、新入寮生を迎えるために、年度末には一部の寮生に退寮をお願いしていますが、一人でも多くの者がこの雄志寮から社会に巣立って行くことを願っています。

入学にあたり親の思い

親として思うこと

1年保護者

「お兄ちゃんが農林で、お姉ちゃんが商業なら、弟は工業かな？」冗談でこんなことを言っていたら、現実のこととなってしまいました。私たち夫婦は、どちらも普通高校の卒業でしたから、職業科高校が実に新鮮で魅力的なものでした。

息子は、小学校の頃、テレビでやっていたロボコンを見るのが大好きで、「僕も大きくなったら、ロボコンをやるんだ。」と、言っていました。その番組に出てくる岐阜高専が、その頃から息子の脳裏にインプットされていたのではと思います。

学校説明会では、求人倍率が10倍を超えることや国立大学への編入率が4割を超え、岐阜県でナンバーワンの隠れた進学校であることなど、どれも目からうろこが落ちる話ばかりでした。どれも、高専の卒業生の職場での実績と先生方の研究成果の賜物と感謝しています。そんな高専の仲間に息子が加えてもらえたことをとてもうれしく思います。

また、寮生活を体験できることも大変、魅力的です。『同じ釜の飯を食う』とありますが、同じ釜の飯を食った友は一生の友になれると思います。プライバシーもなく、規制もあるものですが、それ以上に集団生活のすばらしさを体験できると期待しています。さらに経済的な親の負担も魅力的で本当にありがたいと思います。とにかく、親子ともどもよろしくお願いします。

入学にあたって親の思い

1年保護者

3年前、長男が高専へ入学し、寮生活となりました。部活などでなかなか帰って来ない長男の様子を見るため、高専祭・部活応援と、何かにつけて高専へお邪魔しておりました。

その際、よく一緒に来ていた次男はそこで何を感じたのか、いつしか兄と同じ進路を考えるようになって行きました。

私たちも、高専のすばらしさは感じておりましたので、兄弟そろってお世話になればと、心の中では思っておりました。進路決定まではいろいろ話し合い、合格発表までは緊張の連続でした。その分、合格したとわかった時の喜びはとても大きく、次男も少し誇らしげに見えました。

その後、オリエンテーション参加の時から同じ部活の子を探して話しかけたり、入学式当日も何人かの子と仲良さそうに話している我が子を見て、親元を離れた生活でも何とかやって行けるかなと思い、少し安心しました。

これからは、5年間という高専の環境の中で時間を有効に活用し、学業に部活に仲間作りに励んでくれればと、また、今はまだ寮生活の厳しさを感じていると思いますが、これが楽しさに、さらに生涯付き合える友情を育む機会になる事を願っております。

5後にひと回りもふた回りも、大きくたくましくなった姿を思い浮かべながら。

教育後援会行事予定

- 6月15日(金) 保護者見学会(希望者) バス3台 森永乳業(江南市)・三葉電機(稲沢市) 見学
 10月上旬 企業見学会(本科生・専攻科1年生とその保護者)
 ★教育後援会地区保護者懇談会 13:00～() 該当地域名
 11月3日(土) 飛騨地区 会場 現在交渉中(高山・飛騨・下呂市, 大野郡)
 “ 愛知県地区 会場 アイプラザ宮(愛知県全域)
 4日(日) 滋賀県地区 会場 現在交渉中(滋賀県全域)
 “ 岐阜地区 会場 本校(岐阜・各務原・山県・羽島市郡, 専攻科, 愛知滋賀県以外)
 10日(土) 東濃地区 会場 現在交渉中(中津川・恵那・瑞浪・土岐・多治見市)
 11日(日) 美濃・可茂地区 会場 現在交渉中(関・美濃・郡上・美濃加茂・加茂・可児市郡)
 “ 西濃地区 会場 本校(大垣・瑞穂・本巣・海津市, 養老・安八・不破・揖斐郡)

主な学校行事

- 6月19日(火)～20日(水) 平成20年度専攻科選抜検査(推薦)(前期学力)
 23日(土) 寮生盆踊り大会
 30日(土)～7月1日(日) 第45回東海地区国立高専体育大会
 (陸上: 岐阜, 水泳: 鳥羽, バトミントン: 鈴鹿)
 7月6日(水) 休講
 7日(土)～8日(日) 第45回東海地区国立高専体育大会(主管: 豊田)
 14日(土)～15日(日) 第45回東海地区国立高専体育大会(サッカー: 鈴鹿)
 17日(火)～19日(木) 休講(専攻科)
 19日(木) 休講 学級懇談会(第1～4学年)
 寮生保護者懇談会(第1～4学年) 閉講, 閉寮 16:00
 19日(木)～20日(金) 第45回東海地区国立高専体育大会(テニス: 鈴鹿)
 20日(金) 夏季休業始
 8月13日(月)～17日(金) 夏季一斉休業
 18日(土)～26日(日) 第42回全国高専体育大会(主管: 弓削商船)
 21日(火)～23日(木) 第14回全国高専将棋大会(会場: 沼津)
 28日(火) 夏季休業終, 閉寮13:00
 29日(水) 開講
 9月2日(日) 岐阜高専見学会
 12日(水)～18日(火) 前期期末試験(専攻科)
 12日(水)～20日(木) 前期期末試験(第1～5学年)
 19日(水)～21日(金) フォローアップ授業・補講・補習期間(専攻科)
 21日(金)～28日(金) フォローアップ授業・補講・補習期間(本科)
 10月1日(月) 更衣, 予備日, 閉講, 前期終
 2日(火) 後期始 開講
 4日(木) 月曜日の時間割で授業実施
 6日(土)～7日(日) 第18回全国高専プログラミングコンテスト本選(津山)
 15日(月)～28日(日) 学級(個人) 懇談会週間
 16日(火)～17日(水) 学級(個人) 懇談・授業参観日(保護者)
 21日(日) ロボコン2007 第20回東海北陸地区大会(富山)
 27日(土)～28日(日) 高専祭公開日
 29日(月) 高専祭後片付け
 30日(火) 高専祭振替日(休講)
 31日(水) 月曜日の時間割
 11月6日(火)～9日(金) 第4学年研修旅行
 7日(水) 第3学年研修旅行
 11日(日) 第45回東海地区国立高専体育大会(ラクビーフットボール: 鳥羽)
 16日(金)～17日(日) 第4回全国高等専門学校デザインコンペション2007(徳山)
 25日(日) ロボコン2007 高専部門全国大会(国技館)
 12月3日(月)～7日(金) 後期中間試験(第1～4学年)
 10日(月) 専攻科進学・大学編入学・大学院進学ガイダンス(第4学年以下)
 19日(水) 献血 寮生クリスマス会
 21日(金) 大掃除, 学級指導, 閉講
 22日(土) 寮生大掃除, 閉寮14:00
 25日(火) 冬季休業始

親子で就職を考えよう

－親子企業見学会実施報告－

本校を卒業後、多くの学生は就職するか、大学に編入学しますが、いずれにしてもいつかは就職することになります。しかし、就職の時期になり、いざ親子で話し合おうとしても、意外にきっかけがないことがあります。そこで、本校の学生および保護者が共に企業を見学し、就職について話し合う機会を設けることになりました。とりあえず身近な県内企業の見学会を実施しました。

平成19年3月14日(水)12時半に岐阜高専を本校のスクールバスでクラレプラスチック㈱伊吹工場に向かって出発しました。

会社概要の説明では、ゴム、王ラスチックのホース、ラミネート製品などを製造していることがわかりました。工場では特殊なホースの製造現場を見学しました。

案内していただいた社員方からは、例えば、ホース製造では、熱とか、力のかかり方などについて問題意識を持つことが重要であるとの説明がありました。

2社目の㈱関ヶ原製作所ではクレーン、トンネル掘削機など大型の製品の製造工程(写真参照)や、大理石を切断する現場、福利厚生施設などを見学しました。

岐阜高専に戻るバスの中で出された意見では、親子で就職を考えるよい機会になり、今後も参加したいとのことでした。

今回は、初めてのことでしたが、試行として開催し、参加者は18名でした。次回は、10月の予定です。見学先等が決定次第、ご案内いたします。(事務局)



●編集後記

今年度は4人の副校長が代われ、新任の抱負を原稿にいただきました。玉稿にお礼を申し上げますとともに、ご活躍を祈念いたします。この12号では、新たな試みとして実施されました親子の企業見学会の報告をいたしました。第5学年と専攻科第2学年の学生には進路決定の時期です。求人数は多いようですが、人生の飛躍の機会ともなりますので、親子で慎重に検討されるといいですね。(事務局長 橋浦正史)

発行：岐阜工業高等専門学校 教育後援会事務局 TEL・FAX (058) 323-8752
〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236-2 E-mail: gnctk@yahoo.co.jp